

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

1. 研究課題名	副腎性サブクリニカルクッシング症候群並びにサブクリニカルクッシング病の診断基準の再評価および新診断基準の作成の試み		
2. 対象患者	2003年4月1日より2015年3月31日までの間、当該施設に入院した副腎腫瘍患者のうち、現行の診断基準により副腎性SCSと診断された患者および下垂体性サブクリニカルクッシング病と診断された患者、及び非機能性副腎腫瘍と診断された患者。 対象の除外基準:原発性アルドステロン症(単独)、クッシング症候群および褐色細胞腫と診断した患者		
3. 対象となる期間	2014年8月26日 ~ 2016年3月31日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院内分泌内科 福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科 九州大学医学部病態制御内科 浜松医科大学内分泌代謝内科 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 千葉大学細胞治療内科学講座 大阪大学大医学部内分泌代謝内科学 土井内科胃腸科		
5. 研究責任者	氏名	蔭山 和則	所属 内分泌内科, 糖尿病代謝内科, 感染症科
6. 研究の意義	本邦における副腎性サブクリニカルクッシング症候群(SCS)の診断は1995年に制定された厚生省特定疾患調査研究班による基準が用いられている。2008年、米国内分泌学会ではCushing病を含めた広義のクッシング症候群のスクリーニング検査として、Dex 1mg負荷後の血中コルチゾール値 $1.8 \mu\text{g/dL}$ がcut off値として提唱された。本研究では、自験症例群の解析から、副腎性SCCの新しい診断基準案の作成を試みる。また下垂体ACTH産生腺腫に起因する同様の病態として、サブクリニカルクッシング病(SCD)の病態が提唱されている。SCDについても厚生労働省間脳-下垂体疾患調査研究班から診断基準が提唱されており、症例数が確保できれば、SCDのスクリーニング基準に関しても見直しを行い、副腎性SCSとの統一したスクリーニング基準の提示が可能かどうか検討する。		
7. 研究の目的	本邦における副腎性サブクリニカルクッシング症候群およびサブクリニカルクッシング病の現行診断基準を再検討し、新しい診断基準案作成を試みる。		
8. 研究の方法 (使用する資料等)	調査方法は、入院時カルテおよび報告書のデータを基に行う後ろ向き研究である。 SCSおよびSCDの診断に際して行われたデータを集計し解析する。		
9. 個人情報の保護	研究責任者は対象患者の識別には番号を用い、患者の機密保護に配慮する。研究結果の発表の際には、患者個人が特定できないよう秘密を保全する。		
10. 問い合わせ先	弘前大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学講座 蔭山 和則		
	電話	0172-39-5062	FAX 0172-39-5063